



日本美術 読みとき事典

瀬木慎一

里文出版

日本美術
読みとき事典

瀬木慎一

里文出版

日本美術 読みとき事典

発行

平成十四年十月一日 初版第一刷
平成十九年七月三十一日 新装増補版

著者

瀬木慎一

発行者

安藤秀幸

発行所

株式会社 里文出版

東京都新宿区新宿三―三十二―十

郵便番号 一六〇―〇〇二二

TEL (〇三) 三三五二―七三三二

FAX (〇三) 三三五二―七三三四

振替・〇〇一九〇―〇―六五〇三三

印刷所

ティーケー出版印刷

はじめに

5

I 仏像の知識

1. ほとけの位階
2. 天・神将・混合仏・現身仏
3. 世界観
4. 説話画

24 21 14 12

II 絵画の形式

1. 掛軸の成立
2. 障屏画の発展
3. 版画の流行

41 37 33

III 歴史画の諸相

1. 縁起絵
2. 伝承画
3. 文学画
4. 戦記物語

56 52 49 46

IV 山水画の画題と技法

60

V 人物画の解読

1. 老荘系の人物

2. 中国画題の日本化

3. 浮世絵の人物

74 71 67

VI 花鳥画の変化

79

VII 水墨画の普及

83

VIII 文人画の盛況

88

IX 風景画の興隆

92

X 妖怪・幽霊画

96

XI 庶民の絵画

1. 風刺画

2. 遊び絵

3. 絵本

4. 絵馬

114 110 107 104

XII 小形式の絵画

118

XIII 賛(讃)の役割

122

XIV 落款

126

XV 日本絵画の数理

130

XVI 近代の日本画

141

XVII 鑑賞と鑑定

160

美術年表

167

絵画基準寸法

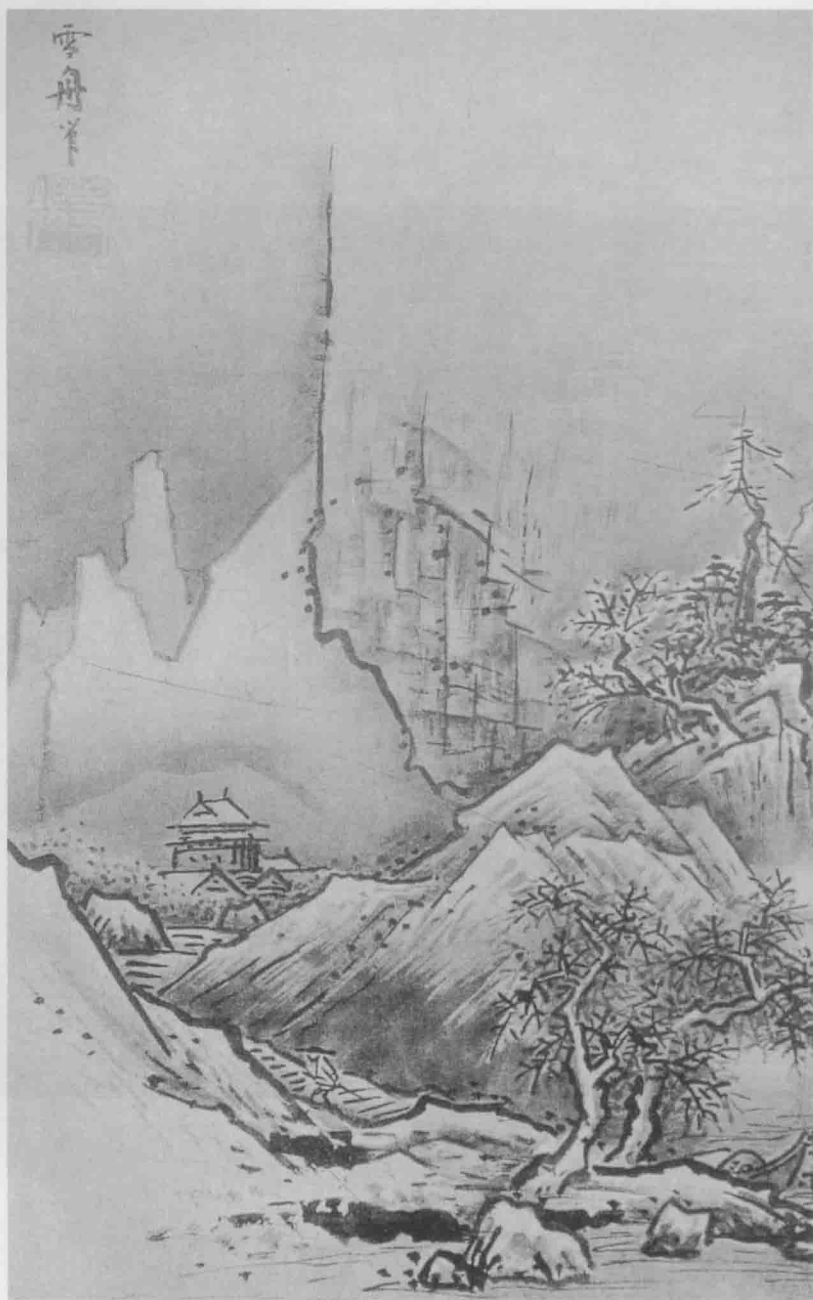
168

浮世絵版画の版型

168

図版掲載作品作者索引

169



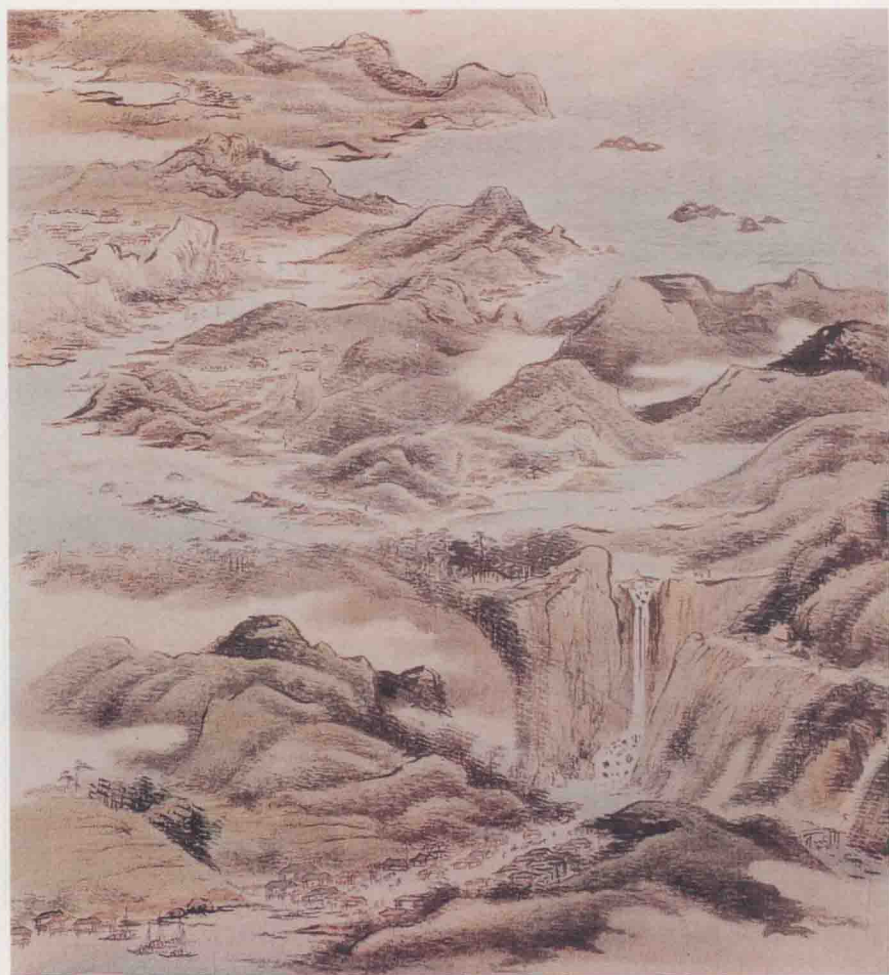
雪舟「秋冬山水図（冬）」〔室町時代 東京国立博物館〕



じつげつ
「日月山水図屏風」部分〔室町時代 大阪 金剛寺〕



尾形光琳「紅白梅図屏風」部分〔江戸時代 MOA美術館〕



渡辺華山「千山萬水図」部分〔江戸時代 個人蔵〕

はじめに

私たちは子どものときから、絵を見たり描いたりして、親しんでいる。ところが、美術展や社寺を訪れて、さまざまな作品を前にすると、理解できないことが少なくな

い。それは、何が描かれているかが分からない場合もあり、どのようにして描かれたかが呑み込めないときもある。そんなとき、それ以上進もうとせずに敬遠する人もあれば、そこに漂う情緒だけを自分流に感じ取って済ます人もある。

まことに残念なことで、作者が真に言いたいことを汲み取るのでなければ、折角、優れた作品と接しても、無為に終わってしまう。それではどうしたらいいのか。

私たちはほんの少しの努力をするならば、意外に容易にそして楽しく、入口を通過することができるのである。そのための多少のガイドを試みようというのが、この一冊の事典を編んだ理由である。

芸術は自由な精神の表現とはいえ、そこには、何らかの形式、様式、主題、技法と言ったものがあり、それらを通して、作者は自分のメッセージを伝える。したがって、その内容を理解するためには、これらの基本的な要素を把握する必要があることは、言うまでもない。

それが私の言う「入口」なのである。

その一番初めに「仏像」を置いたのは、日本の文化の発端にそれがあり、そして、

私たちが成長過程で、祭礼、散策、遠足、修学旅行、観光旅行などの折りに、かならず触れる芸術の最初のものが、これであるからだ。

そして、今、それぞれの年齢に応じて、果たしてどれだけの理解を身につけているかを、率直に省みていただきたい。そうすると、基本の知識がどれだけ大事であるかが、おのずから明白になるはずである。これに限らず、すでに分かったつもりでいる他の多くの事柄についても、同様の思いをするに違いない。

「知らぬは一生の恥」というが、そうであればこそ、「知ることは一生の喜び」という思いを絶えず味わいながら、この基礎を探る地味な仕事に打ち込んだ。その結果を「事典」と名付けたが、この世界には実に多くの「事」があることを再確認した。「辞典」というときの「辞」も大事だが、それをも含めた「事」として、包括的に把握して、絵画や彫刻などの成立ちとそのはたらきを実際的に理解することがいっそう必要だろう。その意味でこれは活用事典であると自分では考えている。

紙面の都合で、取り上げる対象を絵画と彫刻に限らざるをえなかったが、そこで述べた原理は、他の形式の作品にも通用するものである。この一冊を書き上げてみて、改めて、私自身が日本の美術の特質を知り、その良さを強く感じ取れたように思える。日本を知らない日本人などと、外国人に指摘されることのある今日この頃、一国の美術がどんなものであるか、その歴史と美学を知る一助ともなれば、幸いである。

目次

はじめに

5

I 仏像の知識

1. ほとけの位階
2. 天・神将・混合仏・現身仏
3. 世界観
4. 説話画

24 21 14 12

II 絵画の形式

1. 掛軸の成立
2. 障屏画の発展
3. 版画の流行

41 37 33

III 歴史画の諸相

1. 縁起絵
2. 伝承画
3. 文学画
4. 戦記物語

56 52 49 46

IV 山水画の画題と技法

60

V 人物画の解読

1. 老荘系の人物

2. 中国画題の日本化

3. 浮世絵の人物

74 71 67

VI 花鳥画の変化

79

VII 水墨画の普及

83

VIII 文人画の盛況

88

IX 風景画の興隆

92

X 妖怪・幽霊画

96

XI 庶民の絵画

1. 風刺画

2. 遊び絵

3. 絵本

4. 絵馬

114 110 107 104

XII 小形式の絵画

118

XIII 賛(讃)の役割

122

XIV 落款

126

XV 日本絵画の数理

130

XVI 近代の日本画

141

XVII 鑑賞と鑑定

160

美術年表

167

絵画基準寸法

168

浮世絵版画の版型

168

図版掲載作品作者索引

169

日本美術 読みとき事典